

# 働く高齢者が地域を救う！

## -これから求められる産業福祉の創造-

開会行事 (13:30-13:40) / 2008 年度研究中間報告 (13:40-14:10)

基調講演 (14:10-15:10)

### 演 題

「働く高齢者が地域を救う！  
保護する対象から役立つ人材への転換」

### 講 師

弁護士・さわやか福祉財団理事長  
堀田 力 さん



パネルディスカッション (15:20-16:50)

テーマ 「地域の人財（高齢者）の技・知恵・知識を生かした  
地域産業の大きな可能性」

### パネリスト

小澤 庄一 さん（足助町観光協会会長/愛知県）  
畦地 履正 さん（四万十ドラマ社長/高知県）  
田辺 満子 さん（高知県自治研究センター研究ビジネスサポーター/高知県）

◆日時 2009年2月18日（水）13時30分～17時

（開場・受付：13時）

◆会場 高知会館 高知市本町5-6-42 TEL：088-823-7123

地図⇒<http://quickplace.jp/map/view/24859>

主催 社団法人高知県自治研究センター

参加費無料  
事前申込不要

## ■開催の目的

人にとって真の生きがいとは、主体的・自発的に社会に参加、働くこと、喜んでもらえることで、貢献できているという実感を持つことではないでしょうか。

高知県のような高齢化率の高い地方の自治体は、農業が基幹産業であるところがほとんどです。

農業は生涯現役が可能な職業。高齢者が働ける条件を整え、持っている豊富な経験や技術、知恵を最後まで生かすことが出来る環境を作ってあげることで最高の健康が得られる、ひいては農村の担い手確保や耕作放棄地の解消にもつながるのではないかと思います。

このシンポジウムでは、高齢者自身が自発的積極的に仕事の出来る環境を整備することで、地域の産業振興だけでなく、医療や福祉にも効果をもたらすメカニズム（産業福祉政策）はどうすれば創造できるのかを考えます。

## \*プロフィール\*

### 【講師】 弁護士・さわやか福祉財団理事長 ほった つとむ 堀田 力 さん

昭和9年4月12日 京都府生/昭和33年3月京大法学部卒業

昭和36年4月検事任官（札幌・旭川・大津各地検に順次勤務）/昭和47年2月アメリカ合衆国日本国大使館

一等書記官（ウォーターゲート事件フォロー）/昭和51年4月東京地検特捜部検事（ロッキード事件担当）

平成2年6月法務大臣官房長

平成3年11月退職、弁護士登録/さわやか法律事務所及びさわやか福祉推進センター（平成7年4月さわやか福祉財団となる）開設。

以後、各種政府委員などを歴任し、現在、豊かな心をはぐくむ教育の在り方に関する専門部会委員（文科省）、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」議長（厚労省）などを務める。

主な著書：「否認」（講談社文庫）「おごるな上司！」（日経ビジネス人文庫）「生きがい大国」（日本経済新聞社）

『人間力』の育て方（集英社新書）「挑戦！」（東京新聞出版局）など、多数。

## 【パネリスト】

### おざわ しょういち 小澤 庄一 さん

愛知県足助町生まれ。足助町役場に勤務し、企画課長、教育長、助役を経て、1999年に足助町観光協会会長に就任。生活文化体験型観光（山里版）のカリスマ。

町並み保存運動の先頭に立ち、生活文化を伝承していくことの重要性を住民に浸透させた。

また、高齢者の生きがいづくりも福祉であるとの考えから、福祉の拠点「百年草」を建設し、従来型の福祉施設に加え、高齢者の就労の場としてハム工房「ZiZi工房」・ベーカリー「バーバラはうす」などを併設。高齢者の生きがい対策と観光産業を両立した「福祉観光」に取り組んでいる。

### あげち りしょう 畦地 履正 さん

1964年高知県四万十町（旧十和村）生まれ。高校卒業後、通信関連企業、地元農協を経て、94年四万十川流域町村（旧大正町・旧十和村・旧西土佐村）が出資し設立した株式会社四万十ドラマに就職。

「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトにした地域と密着し、自然循環型企業を目指した事業を展開している。

07年7月には道の駅「四万十とおわ」を指定管理者として運営し、何もなかった地域に年間10万人を集客した。その他、四万十川流域観光集客のシステムをつくる「四万十また旅プロジェクト」にも参画し、新たな観光産業を生み出し中。

### たなべ みつこ 田辺 満子 さん

高知県黒潮町（旧大方町）生まれ。1972年から06年まで精神障害者更生施設に生活支援員として勤務。家事や子育てと仕事の両立を図りながら、通信制大学を自身の目標どおり4年で卒業。

退職後はフラダンス、パッチワーク、パソコンなどの趣味に楽しみながら夫と農業を営み、家庭菜園で収穫した農作物やお茶のほか、手作りの味噌やドーナツなどの加工品を直売所に出品し、小金を稼ぎながら日々を元気に楽しんでいる。

07年10月から、黒潮町での実証実験にビジネスサポーター（集荷者）として参加、早朝の地域を奔走中。

【主催・問い合わせ】 社団法人高知県自治研究センター

〒780-0862 高知県鷹匠町2-5-47 電話(088)824-0151 FAX(088)820-0062

当シンポジウムは、平成20年度国土交通省「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業として行っています。